

令和6年度全国学力・学習状況調査＝紀宝町の結果概要＝

令和6年9月3日 紀宝町教育委員会

1. 各教科の「平均正答率」・「平均無解答率」等

	小学6年生		中学3年生	
	国語	算数	国語	数学
紀宝町	60%	63%	57%	55%
三重県	67%	62%	57%	53%
全 国	67.7%	63.4%	58.1%	52.5%
平均無解答率（紀宝町）	6.8%	3.0%	2.5%	10.7%
平均無解答率（全国）	4.2%	3.4%	3.9%	11.3%

令和6年度の調査結果では、中学校・数学が全国の「平均正答率」を2.5pt上回りました。中学校・国語と小学校・算数は、全国をわずかに下回りましたが、三重県の平均正答率と同じか少し上回りました。小学校・国語に課題は残りましたが、紀宝町内の各学校が公開授業研究会等に積極的に取り組み、日々の授業を工夫しながら改善に努めている成果であり、紀宝町の子どもたちの学習への意欲と学力の向上に大きく寄与していると言えます。

「平均無解答率」においては、小学校・国語で全国平均より高くなりましたが、その他の3教科では全国平均より低い（学習に取り組む姿勢として、あきらめずに粘り強い傾向にあると言えます）結果となりました。紀宝町の小中学校では、読む力、考える力、書く力、発表する力などの向上を目指して、普段の授業やテストにおいて「難しいと思える課題や問題に出会ったとしても、最後まであきらめず取り組んでみよう」という指導を継続・徹底している成果といえます。

紀宝町内の小中学校の平均正答率の経年変化を「標準化得点」（下記表）で表すと、教科による得点の上下はありますが、全国との差はなくなってきていることが伺えます。

「標準化得点」（直近4年間）で見た紀宝町の子どもたち

※「標準化得点」は、全国の平均正答率を100として、年度間得点を相対的に比較しやすいものです。

小6	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
国語	99	96	98	96
算数	100	97	98	100
全国	100	100	100	100

中3	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
国語	98	99	98	100
数学	99	98	99	101
全国	100	100	100	100

2. 各教科における『学習指導要領』の領域ごとの特徴

【小学校】 ◎…「成果」である問題の趣旨、▲…「課題」である問題の趣旨

国語	領域では、知識・技能に関する「情報の扱い方に関する事項」は、日頃の学習の成果が表れているが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題が見られる。 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う ◎文の中における主語と述語との関係を捉える ◎人物像を具体的に想像する ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う ▲人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする ▲資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する ▲登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える ▲話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる
算数	「図形」の領域で、全国平均を上回っており、学習の成果が表れている。「変化と関係」「データの活用」については、やや課題が見られる。 ◎除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係を理解している ◎除数が小数である場合の除法の計算をする ◎速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる ◎角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる ▲道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる ▲折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる ▲示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる

【中学校】 ◎…「成果」である問題の趣旨、▲…「課題」である問題の趣旨

国語	領域では、「書くこと」と知識・技能に関する「我が国の言語文化に関する事項」で全国平均を上回った。「話すこと・聞くこと」「読むこと」についてはやや課題が見られる。 ◎話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる ◎目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする ◎行書の特徴を理解している ▲必要に応じて質問しながら話の内容を捉える ▲文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する ▲文脈に即して漢字を正しく書く ▲表現の技法について理解している
----	---

数 学	領域では、「データの活用」「関数」で全国平均を上回った。「数と式」「図形」では、ほんのわずかに全国平均を下回る結果となった。 ◎回転移動について理解している ◎簡単な場合について、確率を求める ◎複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する ◎複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する ▲連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す ▲グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する ▲筋道を立てて考え、証明する

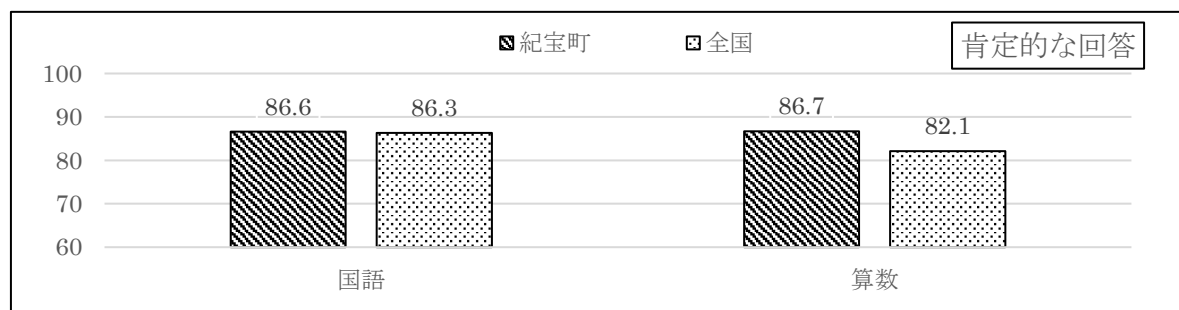
3. 「児童・生徒質問紙調査」の特徴的な傾向

学習意欲、学習方法、生活の諸側面等に関する調査です。特徴的な傾向を考察します。

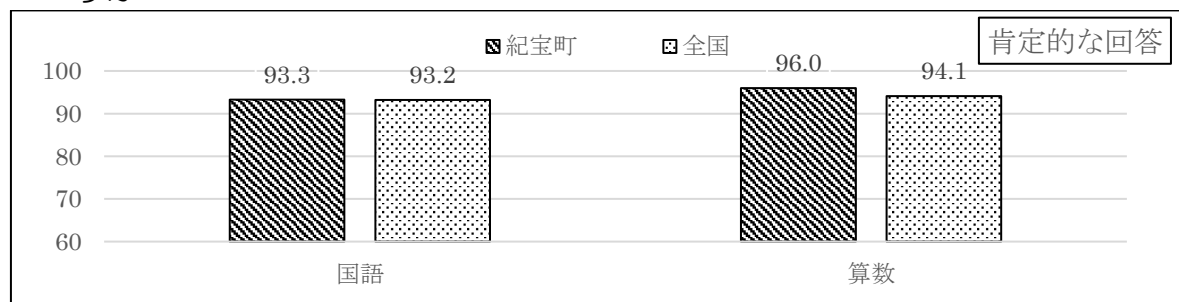
※「肯定的な回答」＝『当てはまる』＋『どちらかと言えば当てはまる』

学びの充実に向けて（主体的・対話的な学び等） 【小学校】

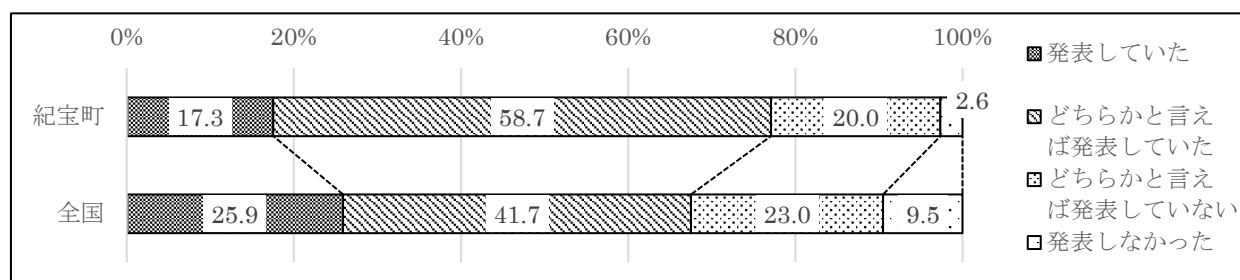
Q1. 国語・算数の授業の内容はよくわかりますか



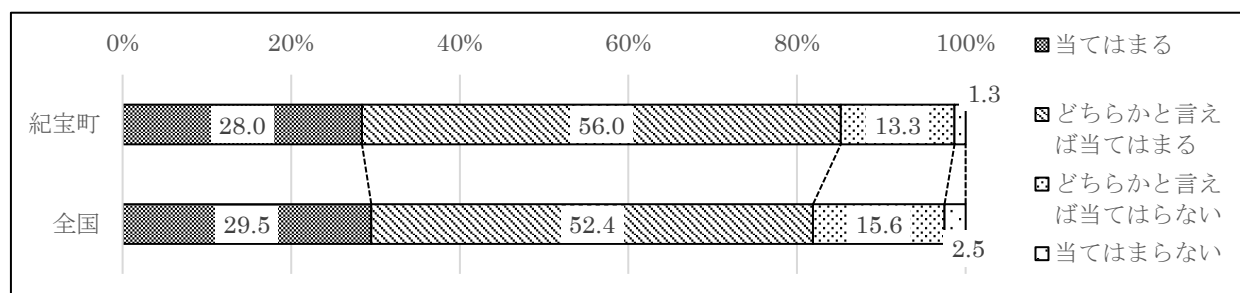
Q2. 国語・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



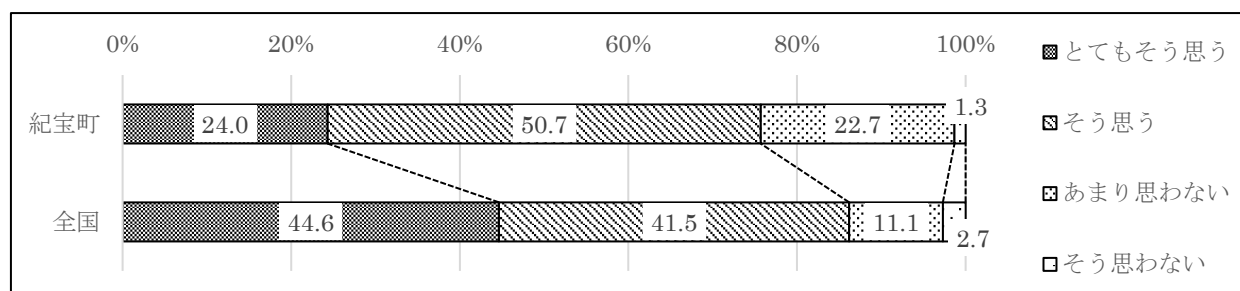
Q3. 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していましたか



Q4. 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



Q5. PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなりますか



◎〔小 Q1・Q2〕：「国語・算数の授業のわかりやすさ」について、全国平均で特に算数が 4.6pt 上回っています。また、「将来、社会に出たときに役立つ」という肯定的な回答も国語 (93.3pt)・算数(96.0pt)ともに全国平均を上回っています。日頃からの各学校の授業の工夫や改善、学ぶ意欲の醸成に取り組んできている成果であることが伺えます。

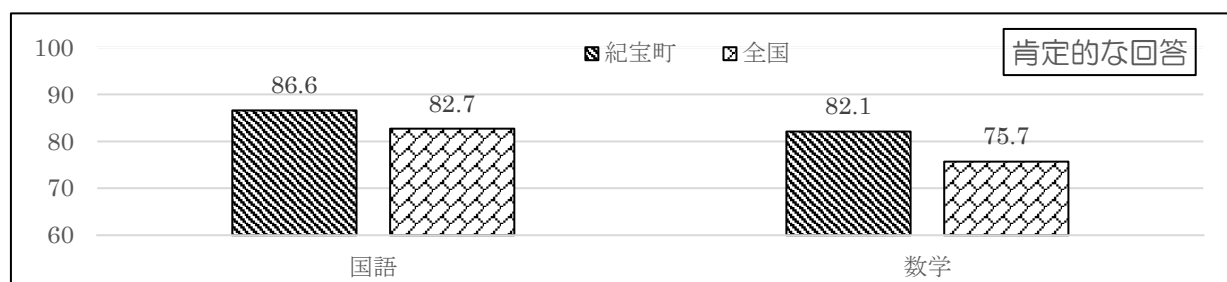
◎〔小 Q3〕：「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫している」について、肯定的な回答は全国より 8.4pt上回っています。各学校が学習基盤としての言語活動を大切にしながら授業づくりをすすめていることが伺えます。

◎〔小 Q4〕：学習に取り組む姿勢は、肯定的な回答が全国平均よりも2.1pt 上回っており、前向きに取り組んでいることが表れています。児童一人ひとりの主体的な学びへの姿勢の表れでもあることが伺えます。

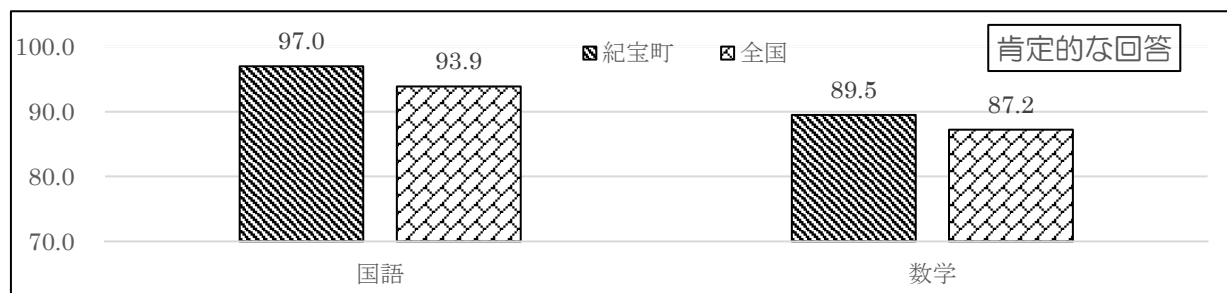
◎〔小 Q5〕：「PC・タブレットなどの ICT 機器」の効力について、肯定的な回答は全国平均を 11.4pt 下回りました。主体的・対話的でより深い学びに繋げる授業づくりの一助として、ICT 機器の活用は、大きな力となり得ます。子どもたちの協働的な学びがより充実するよう、さらに授業づくりの工夫や改善に取り組んでいきたいと考えます。

【中学校】

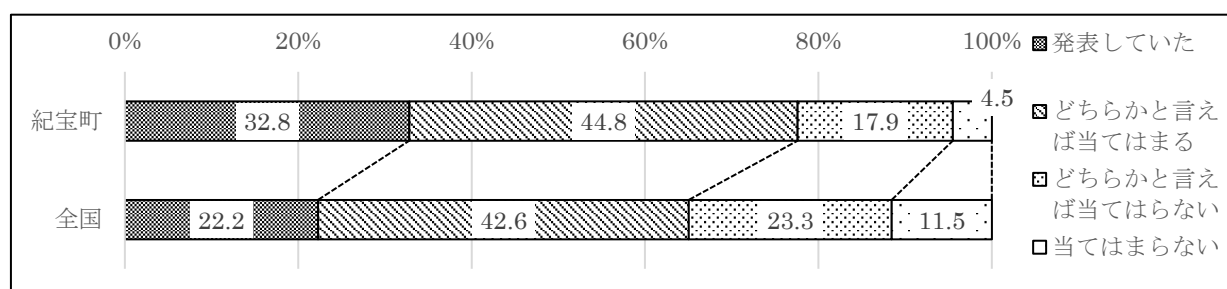
Q1. 国語・数学の授業の内容はよくわかりますか



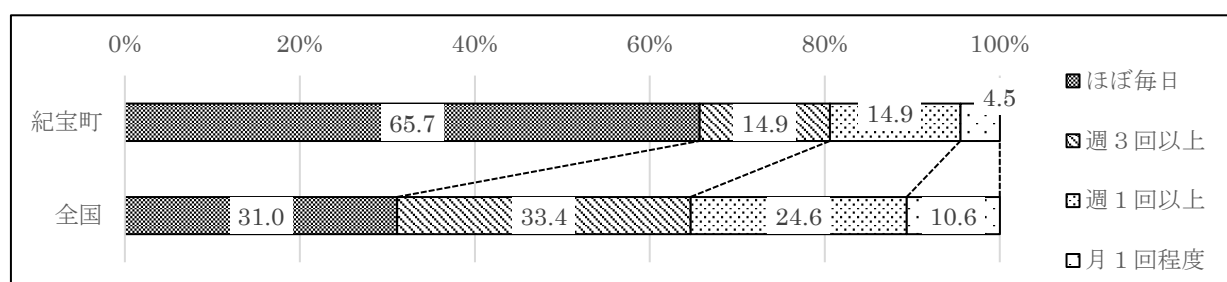
Q2. 国語・数学の勉強は大切だと思いますか



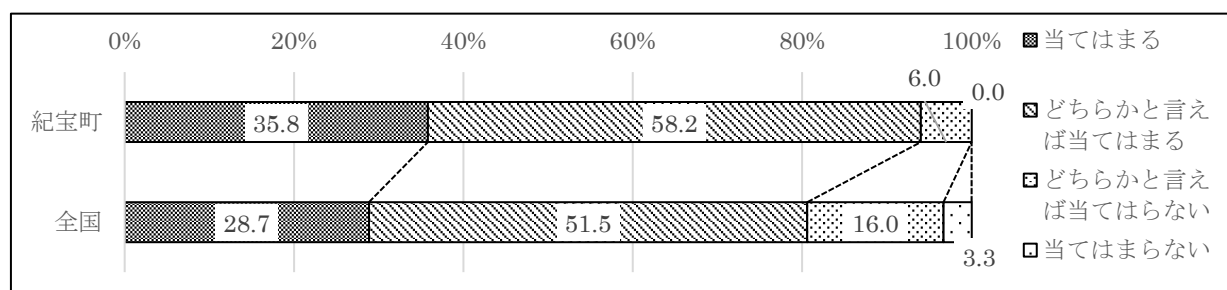
Q3. 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していましたか



Q4. 授業では、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



Q5. 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか



◎〔中 Q1・Q2〕：「国語・数学の授業の内容はよく分かりますか」について、肯定的な回答が全国平均を国語で3.9pt、数学で6.4pt上回っています。「国語・数学の勉強」の大切さについても全国平均を上回り、これらは、小学校も含めた紀宝町の各学校の授業改善の取組が学習者としての主体である児童生徒の学びに繋がっていると考えられます。今後も、一人ひとりの子どもたちが輝くことができる授業づくりをすすめていきたいと考えます。

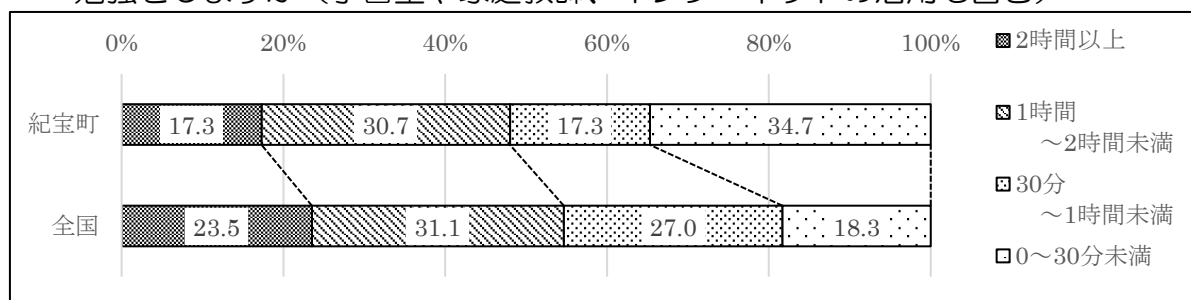
◎〔中 Q3〕：「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫している」について、小学生と同様、肯定的な回答をした割合は高く、中学生は12.8pt全国を上回っています。各学校が学習基盤としての言語活動を大切にしながら授業づくりに取り組み、このことが子どもたちの主体的な学びに繋がっていると考えられます。

◎〔中 Q4〕：「ほぼ毎日使う」との回答が65.7%、「週に3回以上」を加えても全国を16.2pt全国を上回っています。PC・タブレットだけでなく紀宝町の予算にて電子黒板などの大型提示装置等の教育条件を整備・充実させることができ、各学校での授業改善に大いに役立てられています。

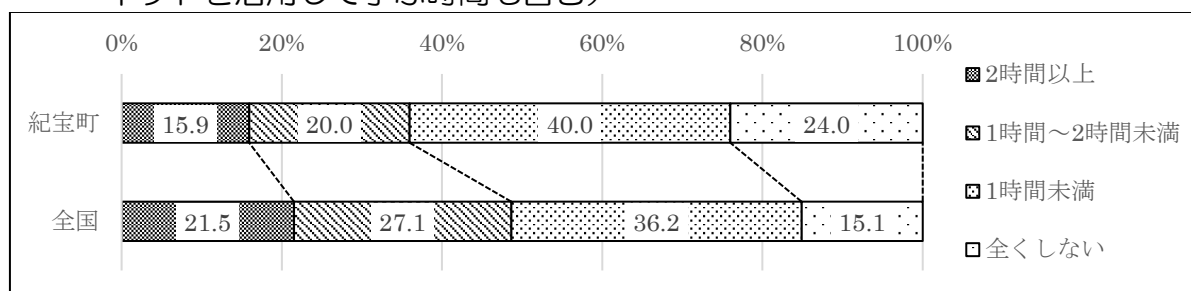
◎〔中 Q5〕：「タブレットなどを活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」について、94.0%の生徒が肯定的な回答をしており、しかも全国平均を13.8pt上回っています。中学生は、ICT 機器の利用方法についても習得が早く、主体的な学びと共に『個別最適な学び』の充実に繋がっていることが伺えます。

家庭学習・生活習慣について 【小学校】

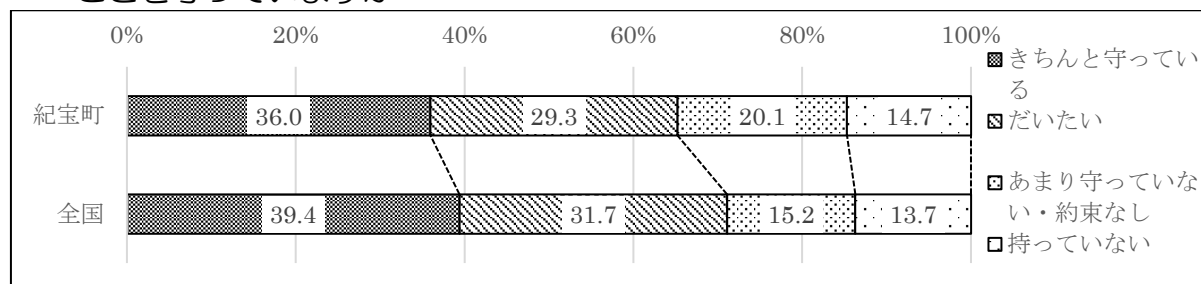
Q1. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）



Q2. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

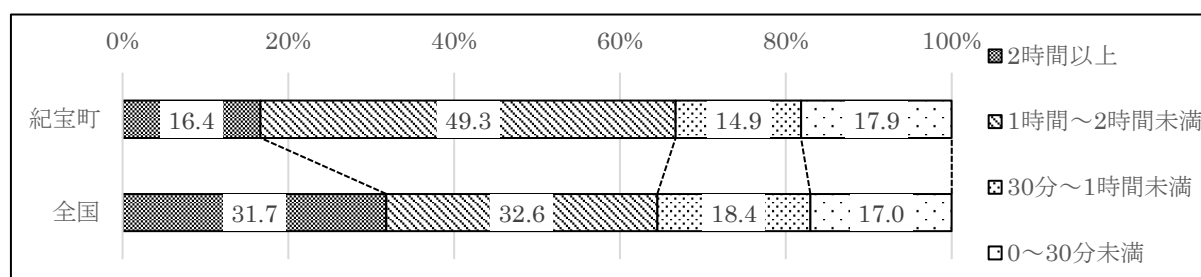


Q3. 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

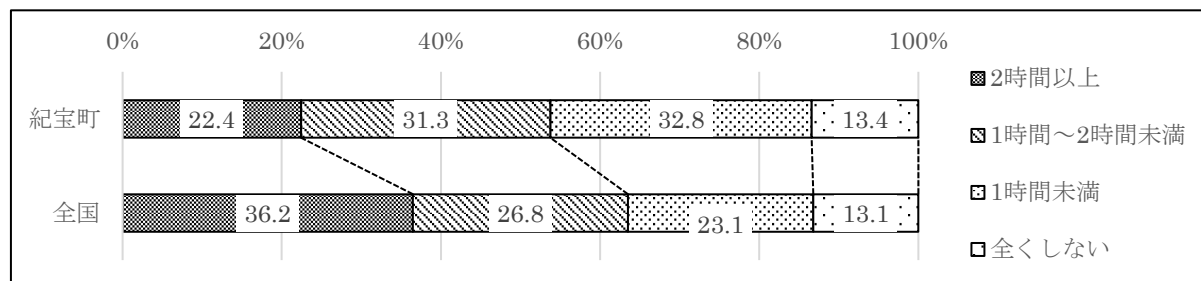


【中学校】

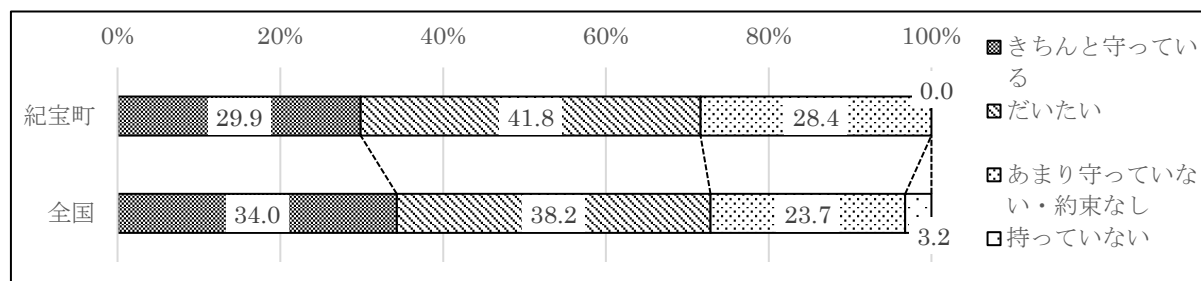
Q1. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）



Q2. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



Q3. 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



◎[小・中 Q1・Q2]:家庭学習の「1日1時間以上」で全国平均と比較するとまだまだ課題は残っていますが、中学生の普段の日の「1時間以上」の勉強時間が、全国を1.4pt上回ります

質問事項	学年	1時間以上の学習（全国平均との差）	
		令和5年度	令和6年度
小・中〔Q1〕	小6	37.3(−19.8)	48.0(−6.6)
	中3	51.3(−14.5)	65.7(+1.4)
小・中〔Q2〕	小6	32.0(−20.5)	35.9(−12.7)
	中3	47.7(−17.6)	53.7(−9.3)

した。また、紀宝町の小中学生ともに、休日も含めた家庭学習の時間が前回より増えていることが伺えます。普段の日の小学生の勉強時間は、令和4年度（全国と比較：-24.6pt）からの3年間比較において、着実に改善傾向が見られます。学習の定着には家庭学習の充実が大切であり、今後も学校と家庭が協力して子どもたちの意識を高めていきたいと考えます。

◎〔小・中 Q2〕：休日の家庭学習において、「全くしない」という回答は、小学校24.0%（前回21.3%）、中学校13.4%（前回25.0%）で、中学校で改善されております。毎年4月に配布している「家庭学習のすすめ」と共に、普段からの自主的な学習の大切さについて指導を継続していきたいと考えます。

◎〔小・中 Q3〕：スマートフォンやコンピュータの使用について、家庭での約束を「守る」人は、全国を下回っています（小：-5.8pt、中：-0.5pt）が、紀宝町の小中学生ともに「守る」人の割合は増えており、令和4年度と比べ（令和5年度は調査項目なし）、小学生が+5.8pt、中学生は+2.7ptでした。特に、中学生で「持っていない」と回答したのは0%であり、近年のSNS等における課題を考えると、使い方について家庭でも継続して話し合っていたいただきたいと思います。

自己肯定感・規範意識などについて

【小・中学校】

質問事項	学年	肯定的回答（全国平均との比較）%	
		令和5年度	令和6年度
自分には、よいところがあると思いますか	小6	72.0(-11.5)	80.0(-4.1)
	中3	91.3(+11.3)	85.1(+1.8)
将来の夢や目標を持っていますか	小6	81.3(-0.2)	82.7(+0.3)
	中3	70.0(+3.7)	71.6(+5.3)
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	小6	93.3(+2.3)	90.6(-1.1)
	中3	87.5(+0.7)	94.0(+4.2)
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	小6	89.4(-0.4)	81.3(-8.6)
	中3	95.0(+7.7)	91.1(+0.7)
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小6	97.3(+0.4)	96.0(-0.7)
	中3	91.3(-4.2)	97.0(+1.3)
人が困っているときは、進んで助けていますか	小6	90.7(-0.9)	94.7(+2.0)
	中3	92.6(+4.5)	94.0(+3.9)

※自己肯定感や規範意識等に関しては、全国を上回る肯定的な回答も多く、また、令和5年度と比べても、全般的に子どもたちの自己肯定感や規範意識等が高まっていることが伺えます。今後も、教職員みんなで一人ひとりの子どもたちに寄り添うことを大切にしながら、学校教育活動を推進していくことが重要であると考えます。

◎「自分の、よいところ」に関して、肯定的な回答をした小学生は、全国より4.1pt下回っていますが、前回調査と比べると8.0%増えています。中学生は、全国を1.8pt上回り、小中学生共に8割を超えています。今後も、子どもたちが自分自身に自信をもって日々の活動に取り組んでいけるよう、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの成長に寄与していきたいと考えます。

◎「将来の夢や目標」に関して、肯定的な回答をした小中学生は、全国を上回っています。今後も、子どもの意欲や取り組もうとした姿勢を認め、努力することを後押ししていきたいと考えます。

◎「普段の生活の中で幸せな気持ちになること」に関して、肯定的な回答をした小中学生は9割を超えています。子どもたちの幸福感あふれる笑顔は、教職員にとっても大きな喜びを感じる一瞬です。今後も、子どもたち一人ひとりが個性を輝かせられるよう、取り組んでいきたいと考えます。

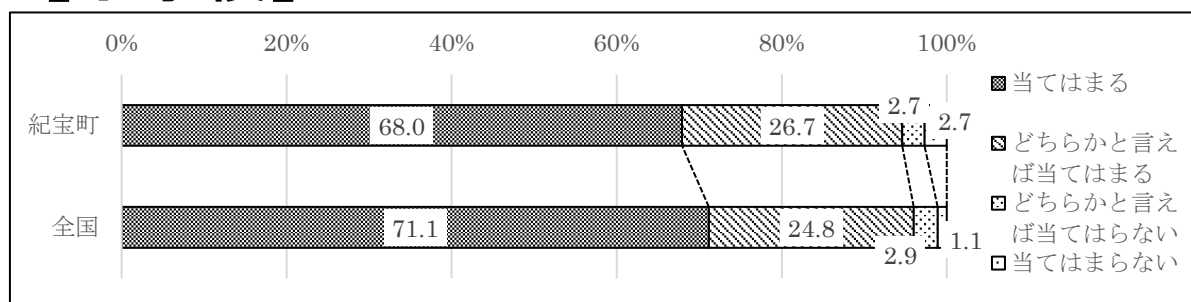
◎「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」に関して、肯定的な回答をした小学生は、全国平均を8.6pt下回っています。普段から、中学生も含め、一人ひとりの子どもをしっかり見つめ、子どもの思いを聴き、励まし自信を持たせてあげることが大切にして接していく必要があると考えます。

◎「いじめはどんな理由があってもいけない」や「人が困っているときは進んで助けています」に関して、肯定的な回答は、小中学生とも95%前後で、紀宝町の子どもたちの規範意識等の高さが伺えます

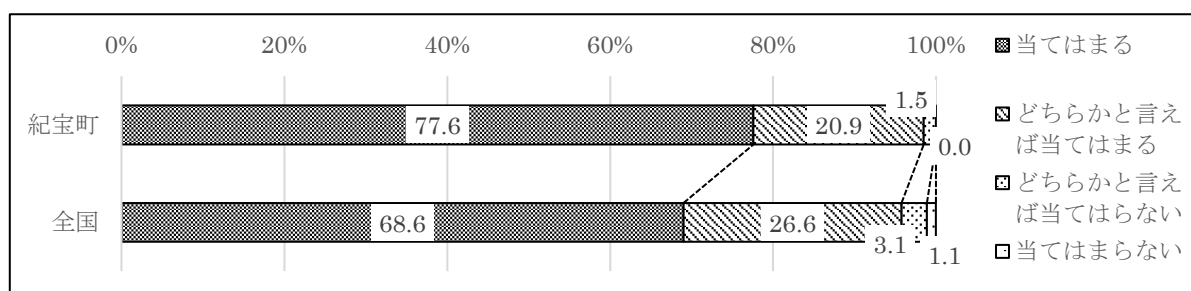
人との関りや地域・社会に係わる活動

Q1. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

【小学校】

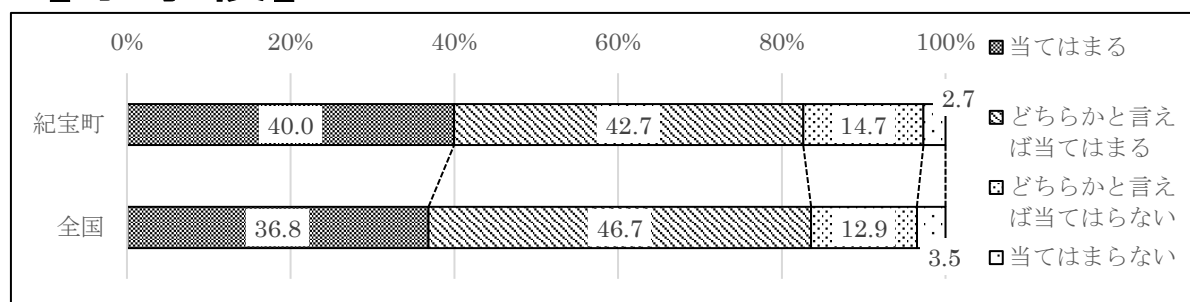


【中学校】

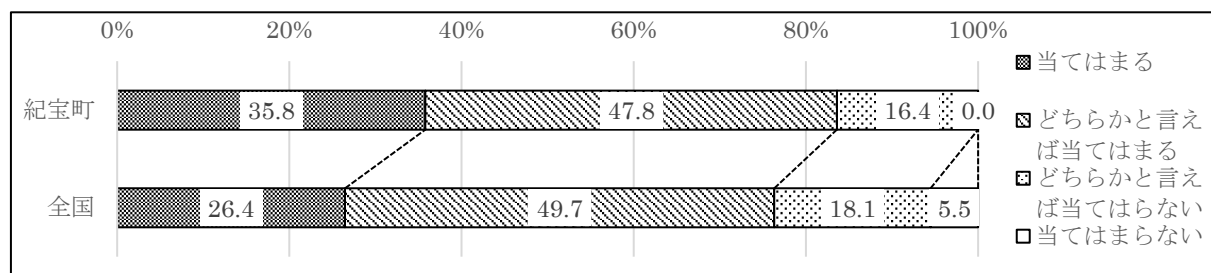


Q2. 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

【小学校】



【中学校】



◎〔小・中 Q1〕：情報技術の発達により、子どもたちも含めて人々の社会生活は大変便利になっています。反面、人と人との関わりが薄れてきていることが指摘されています。95%前後の小中学生が、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に回答しています。このことは、学校や家庭、さらには地域の中での豊かな経験や体験なども大きく関わっていると考えられます。今後も、学校と家庭、そして地域・社会が連携しながら子どもたちの成長に寄与していくことを大切にしたいと考えます。

◎〔小・中 Q2〕：紀宝町の小中学校では、各学校運営協議会の協力のもと、コミュニティ・スクールとして学校や地域の行事で、子どもたちが地域の方々と関わる機会が多く、子どもたちの地域への関心は年々高まっていると考えられます。

質問事項	学年	肯定的回答（全国平均との比較）%	
		令和5年度	令和6年度
小・中〔Q2〕	小6	68.0(−8.8)	82.7(−0.8)
	中3	78.8(+14.9)	83.6(+7.5)

「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という質問に対して、令和5年度と6年度を比較すると、小学校：+14.7pt、中学校：+4.8ptで、特に小学生も地域や社会に関する意識・関心が高まってきていることが伺えます。このことは、地域の方々が紀宝町の子どもたちと関わり、子どもたちの成長を見守っていただいているおかげと言えます。

4. 「学校質問紙調査」の特徴的な傾向

学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関して学校長が回答する調査です。特徴的な傾向を考察します。

紀宝町の小中学校の【強み】 全国平均を上回った項目

《カリキュラム・マネジメント確立のための組織的な学校運営の推進》

- ◎教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか
- ◎教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか
- ◎各児童生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか
- ◎児童生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか
- ◎今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

- ・ 学校は、一つの組織として情報を共有・協働していくことが大変重要です。そのことを基盤に、学校教育をよりよいものにしていくためにも、学校全体で日々の教育活動の改善を進めていく「カリキュラム・マネジメント」が大切になります。紀宝町の各小中学校においても、学校長のリーダーシップのもと、PDCA サイクルによる改善活動、教職員の協働による組織的・継続的な取組等が進められていることが伺えます。今後も、紀宝町の子どもたちの成長や学力向上のために、各学校及び各学校間で連携しながら取組を充実させていきたいと考えます。

《授業の工夫と改善に向けた研修等の推進》

- ◎授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか
- ◎児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか
- ◎児童生徒に対して、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか
- ◎児童生徒に対して、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか
- ◎児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか
- ◎学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか
- ◎児童生徒一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか
- ◎教員が大型提示装置等（プロジェクター・電子黒板等）の ICT 機器を活用した授業をどの程度行いましたか

- ・ 紀宝町内の小中学校では、「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」の分析

結果を踏まえながら、授業の工夫・改善に取り組んでいます。「児童・生徒質問紙」における「国語・算数数学の授業の内容はよくわかりますか」では、8割以上の小中学生が、また「国語・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」においても、9割強の小学生が、「国語・数学の勉強は大切だと思いますか」においても、中学生が高い割合で肯定的な回答をしています。また、これらのどの質問についても全国平均を上回る結果となっています。

このことは、日頃から教職員が様々な研修等に取り組み、また学ぶことの意味や意義を子どもたちに伝えながら授業づくりに取り組んできた結果でもあると考えます。今後も保護者のみなさんの理解を得ながら、子どもたちが主体的に学びに向き合えるよう取り組んでいきたいと考えます。

- ・ 紀宝町内の各学校では、積極的に児童生徒一人一台端末等の ICT 環境を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に努めています。また、紀宝町学力向上推進協議会において各学校が連携し、大学教授等の講師を招聘した公開授業研究会などを通して、教職員同志が互いに学び合いながら、教職員の教育力や指導力の向上に取り組んでいます。今後も、紀宝町内の学校が連携し、教職員研修を充実させることにより、子どもたちの確かな学力の定着と向上に取り組んでいきたいと考えます。

《「主体的・対話的で深い学び」および「個別最適な学び・協働的な学び」の視点からの授業改善》

- ◎授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか
- ◎児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか
- ◎学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか
- ◎児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか
- ◎児童生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか
- ◎児童生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか
- ◎児童生徒に対して、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか
- ◎児童生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

- ・ 「児童・生徒質問紙」においても、「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表する」において、全国平均より小学校で8.4pt、中学校で12.8pt上回っています。各学校が子どもたちの「訊き合い・学び合う」関係を育成しながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点を大切にした授業の工夫・改善を行いながら日々の授業づくりに取り組んでいる成果であると言えます。これらの学びは、「自ら問いを立て、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する」という探求的な学習の一助となると考えます。

《地域とともにある学校づくり～地域・保護者との連携～》

◎コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

◎令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）

- ・ 紀宝町の各学校運営協議会を中心に、学校と地域・保護者が協力して、地域の特性を生かしながら、毎年様々な充実した活動を進めていただいております。児童生徒質問紙調査の結果にもあるように、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という子どもたちの肯定的な回答は小中学校ともに8割を超え、特に小学校では前回と比べ、+14.7ptとなっています。地域の方々と子どもたちとの関りは、子どもたちの成長に大きく寄与していただいていると考えます。

紀宝町の小中学校の【弱み】

全国平均を下回った項目

《授業の工夫・改善とカリキュラムマネジメントの推進》

▲授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

▲近隣等の学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか

- ・ 紀宝町では、学力向上推進協議会を組織し、小中学校が連携して公開授業研究会や情報交換会を実施しています。その様な機会を有効かつ充実させ、各学校における協働した取り組みを推進しながら、子どもたちの学力の向上を図っていきたいと考えます。

《ICT を活用した学習状況》

▲一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか（以下の3つ場面について、特に課題が残った）

- ・ 自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）
- ・ 教職員と児童生徒、また児童生徒同士がやりとりする場面
- ・ 自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面

▲児童生徒一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

- ・ 「児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を授業でどの程度使用させていますか」の問いに対し、紀宝町のすべての小中学校で週3回以上という結果で全国平均より8pt高くなっています。このことは、日頃からの教職員の ICT 機器に対する研修や授業の工夫・改善を意識した授業づくりにつながっていると感じます。今後は、授業におけるICT機器の効用場面について議論し研修を深め、授業改善に繋げていきたいと考えます。
- ・ 調査対象学年（小6・中3）の児童生徒の「PC・タブレットなどの家庭での利用」については、

全国平均では、小学校で36%、中学校で46%の学校が「毎日持ち帰っている」と回答しています。活用の仕方を工夫し、紀宝町の児童生徒の更なる「家庭学習の充実」につなげていくことも大切であると考えます。

5. 紀宝町教育委員会の取組 =今後の改善に向けて=

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果より、児童生徒や各学校の「強み」「弱み」等の傾向を捉え、具体的な施策に反映していきます。また、各学校の主体的な取組を支援する主な事業として、児童生徒の学力向上に向けた以下の取組を継続し推進します。

☆紀宝町学力向上推進協議会の充実と教職員の教育力・指導力の向上を目指した授業の工夫・改善、全職員の協働による学力向上の取組の継続的な検証サイクルの確立

※全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析と活用

＊各学校での自校採点と結果分析による、課題の共有と授業改善

＊県教委作成ワークシートや過去問題による授業・家庭学習への活用

※学力向上に向けた各学校の取組と支援

＊すべての教科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

＊授業の工夫・改善の取組を通じた、学習の基盤としての言語活動の充実

※町内の各学校の公開授業研究会等への支援

＊先進的授業研究に学ぶ機会としての著名な大学教授等の講師の招聘

＊各学校の授業の工夫・改善と相互交流による優れた実践の共有及び活用

※ICT環境を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

☆各学校の授業力向上と指導方法の改善のための校内研修への支援

※各学校の校内研修へ町教育委員会指導主事・アドバイザーを派遣

※県教育委員会及び紀州教育支援事務所指導主事からの支援・助言

☆サマースクール、ウィンタースクールおよび放課後サポートスクール事業による自主学習の習慣化

☆紀宝町研究指定校事業（毎年2校を指定）の実施や石川県中能登町教職員との視察交流研修の推進

☆紀宝町立図書館との連携による幼児期からの読書活動推進の取組や学校における読書活動充実のための支援

☆県教育委員会より「『わかる授業』推進事業」のモデル校を指定

※効果的な習熟度別少人数指導の推進（町内中学校1校が指定）

☆「みえの学力向上県民運動」に係る生活習慣等チェックシートを活用した集中取組

保護者・地域の皆様の日ごろからのご理解とご協力に感謝申し上げます。紀宝町教育委員会は、今後も県教育委員会と連携しながら、これらの取組を充実・発展させるとともに、見直しも図りながら、児童生徒の学力の向上に繋げるための支援に取り組んでまいります。